岩手県立生涯学習推進センター

# 研修実施報告 Web版

実 施 日：令和２年８月 25 日（火）
実施場所：県立生涯学習推進センター
受講者数：64 名
市町村参加率：48.5%（16/33 市町村）

# 子育て支援活動交流研修会

孤独感の強い「アウェイ」育児の現状と課題を理解し、地域で支える効果的な子育て支援のあり方を学ぶことを目的として開催しました。家庭教育・子育て支援行政、子育て支援センター、ファミリーサポートセンター、子育て支援団体、子育てサークル、県子育てサポーター、子育て支援ボランティア、民生児童委員など多様な立場の方が受講し、「～１人の 10 歩より 10 人の１歩を～」をテーマに学びました。

| |
|---|
| 職　員　研　修 |
| 有志指導者研修 |
| 要　請　研　修 |

## 【講話】「知らない土地で子育てをするということ」

IBC岩手放送　奥村　奈穂美　アナウンサーに講話いただきました。滋賀県出身の奥村氏は、ご長男出産後の職場復帰で、お子さんの体調不良と欠席、仕事を休まざるを得ない、を繰り返す苦境に・・・。仕事と育児の両立にとても苦しんだそうです。その後、二人目を出産。様々な支援について情報収集して学び、2度目の育休・職場復帰を経て、家族の協力と職場の理解のもと、利用できる支援、知人の協力等を得ながら、仕事と育児に奮闘中です。

奥村氏は、「自分は様々な形で『差し伸べられる手』を知らなかった。だから、そのことと『差し伸べられる手をつかむ勇気』を伝えていきたい。そして『アウェイ育児』を本拠地育児に変えていきたい」と語られました。

## 【実践発表①】「ありのままに気ままに誰も傷つけない」

子育て支援団体「きたかみ子育てネット」代表　髙橋　夏江氏は、当センターで実施した「子育てサポーター養成講座」の修了生で４人の男の子のお母さんです。自ら助成金を獲得し、「ないものはつくろう！」と活動されています。コロナ禍には、休校中の子ども預かり事業「さくらほーる小中一貫校」など、ほしいものを形にするエネルギッシュな活動を展開されています。受講者からは、「刺激を受けた」という声が多数寄せられました。

## 【実践発表②】「おせっかいおばさんの子育て支援」

子育て支援団体「わらしぇんど」代表　渡辺喜代子氏は、「子育てサポーター養成講座」をきっかけに子育て支援を開始されました。月１回笹間振興センターを会場にだれでも気軽に集まり、自由に語らう「子育て支援ひろばわらしぇんど」を開催しています。受講者からは「お母さんに寄り添い、若いお母さんの理解者でいてくれる姿勢が素敵です。こんなに思いをもって活動をしてくれて、感動して涙が出そうだった」との声が寄せられました。

## 【パネルディスカッション】「子育て支援それぞれの一歩」

実践発表者が「サポーター養成講座」を受講した当時の担当者（平田敬子社会教育主事）がコーディネーターを務め、パネルディスカッションを行いました。会場で質問・意見を記入いただき、論点整理をして進行しました。

予想を上回る多数の意見を頂戴しましたが、受講者からは「質問して、聞けたのは大変よかった」「意見等をお読み頂けて、より身近に参加できた」という声が寄せられました。

**↑会場から寄せられた、質問・意見をもとに展開した「パネルディスカッション」**

## 《受講者の声》

- 「アウェイの育児」という言葉や現状・課題を知らなかったが、理解できた。
- 市町村として情報発信の大切さを感じた。
- 異なる活動を展開している方の実践に至る経緯や苦労、支える人との出会いなど生の声を聴けてよかった。
- 立場によってできる支援は違うが、それぞれの立場でできることを行っていくことで、子育てする方々が、自分に必要なものを選択していけるといい。

## 《受講者の評価》

| | |
|---|---|
| A（有意義） | 83.1% |
| B（どちらかといえば有意義） | 13.9% |
| C（どちらかといえば有意義でない） | 0% |
| D（有意義でない） | 0% |

## 《担当者（八重樫）から》

「子育て支援活動交流研修」にふさわしく、異なる立場の受講者が共に学ぶことができました。研修会の様子はIBC ラジオ「新米ママの井戸端会議」でも紹介されました。